

第307回:鄧小平とチャーチル、ドゴールの共通点

1949年に中華人民共和国が成立し、蒋介石率いる国民党が台湾に逃れて以降、初の中台首脳会談が、シンガポールのシャングリラホテルで開催された。習近平主席が赤いネクタイ、馬英九総統が青いネクタイを締めて登場したように、五星紅旗と青天白日旗との対決が注目されたが、期待外れに終わってしまった。

習近平主席は例によって栗戰書、王滬寧の両政治局委員を従え登場し、今回の会談が「台湾海峡を挟む兩岸関係の歴史的一ページを開いた」と、その意義を強調し、馬英九総統の中台関係の改善に対する7年間の貢献を評価した。習近平は中台双方が「歴史の責任を負って正しい選択をする」必要性を訴え、同時に台湾に、「一つの中国」の原則を確認したようだ。「間違っても独立なんて公言しないように」、という率直な気持ちを婉曲に伝えたのだ。

これに対し、馬英九は中台が「66年間、異なる体制の下で発展した」と云う表現で、台湾の民主的な政治体制を尊重するよう要請し、その上で「兩岸の人民は同じ中華民族である」として、中台交流の更なる拡大を求めた。更に馬英九は、AIB 問題や、台湾に向けられている中国の弾道ミサイルの問題等につき、中国にいくつかの要求をしたが、習近平が具体的な回答を避けたことから明らかなように、台湾海峡の溝はまだまだ深いようだ。

魚心あれば水心あるというが、今回の会談は中台双方の思惑が一致して実現した。台湾は来年の1月に総統選挙を控えており、このままだと独立志向の強い蔡英文女史率いる民進党が勝利する可能性が極めて高く、もしそうなれば中台関係がますます不安定になる。民進党政権が誕生すれば、そうでなくても難問山積の中国の舵取りが更に複雑することから、ここは台湾与党の国民党を応援すべきであると習近平が考え、そのアイデアに外省人の馬英九が飛びついたカラクリだ。

テレビ中継では会談冒頭の数分間のみが映し出されたが、習近平も馬英九もスピーチ原稿を丸読みしているのには、がっかりした。歴史的会談の場で、歴史的失言をするわけにいかないと慎重になった気持ちはよくわかるが、今回の中台会談は中国統一の大きなきっかけになるかもしれない正に歴史的イベントである。習近平や馬英九の資質を、チャーチルやドゴール、鄧小平あたりと比較するのはあまりに先人に失礼だが、もし彼らであれば間違いなくペーパーなしでスピーチしただろう。何日もかけて原稿を暗記し、専門家の前で身振りや手振りも含めた練習を重ね、最後に原稿を捨てるか、懐に忍ばせて会場に臨んだに違いない。

馬英九も習近平も苦勞知らずのエリートであり、部下の作った原稿を見ずに、カメラの前で演説する勇気がなかったのは残念だ。もし片方が緊張の面持ちで原稿を丸読みし、片方がにこやかな表情で相手の目を見ながらゆっくり語りかけたら、この瞬間に中台の勝負は決していた。馬習両氏は惜しいチャンスを失った。もしかして「お互い原稿を見ながらスピーチしましょう」と舞台裏で打ち合わせ済みだったのかな。

長身白哲の馬英九はハーバード大学院博士課程を修了し、帰国後は蔣経国総統の英語通訳を勤める等国民党の保守本流を歩いてきたエリート。一方、大兵肥満の習近平も少年時代は田舎に下放され、多少の辛酸を嘗めたようだが、文革終了後は復活した親の七光りで、エリートコースを驀進、縁故入学の清華大を卒業後は、26歳で国防相秘書官、29歳で河北省・正定県の県長、32歳で廈門(アモイ)副市長、47歳で

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

福建省省長、49歳で浙江省書記、54歳で上海市書記からチャイナ9に昇格、そして59歳で中国の主席と、とんとん拍子の立身出世を遂げた。

でも、どこの国でもそうだが、エリートは面白みに欠ける。近ごろ中国政治を研究していて、ちっとも面白くないのは、魅力的なリーダーが一人もないせいだ。筆者が中国と関わりを持つようになったのは1980年以降のことだから、文化大革命終了後の指導者しか知らない。もちろん銀行の駐在員程度では、指導者の警咳に接する機会は少なく、ごく少数の指導者と握手を交わした程度の経験しかない。大半は関連資料を通じて知った指導者像であるが、そのなかで筆者が偉大な政治家であったと認める人物は鄧小平、朱鎔基（元首相）、温家宝（前首相）の三人。そしてその彼らに共通するのは、奇しくも三人とも人生の谷底を経験し、挫折の中で鍛えられた人物であることだ。鄧小平は三度失脚した。最初は親毛沢東派としてコミンテルン派により失脚させられ、二度目は毛沢東に疑われて文革で失脚、三度目も四人組の讒言で地位を全て失った。朱鎔基は若手エリート官僚だった30歳のとき、反右派闘争で失脚し、文革では労働改造所にぶちこまれ、副処長クラスのちっぽけなポストで職場復帰したとき彼は既に47歳になっていた。温家宝も胡耀邦、次いで趙紫陽総書記の首席秘書官（中央弁公庁主任）を勤めているとき天安門事件が勃発、趙紫陽失脚に連座し、彼もここまでかと思われた。しかし温家宝は苦境の中で、趙紫陽批判ではなく、厳しく自己批判することにより実質左遷状態の90年代初頭を乗り切り、復活することに成功する。

挫折のなかから成長して復活を遂げた指導者は中国以外にも、チャーチル、ドゴール、ニクソン、吉田茂、アデナウアーと枚挙に遑がない。そして彼らに共通するのは逆境時に決して自暴自棄にならず、かといって露骨な復活工作などせず、ひらすら時を待ったことである。鄧小平は文革で江西省南昌市のトラクター工場に飛ばされた。工場に近い一軒家の二階に夫人と義母の三人で暮らし、一階には党から派遣された監視人が住み込んだ。午前中は工場労働者として働き、午後は宿舎でマルクス・レーニンの著作を読んで過ごした。鄧小平はもともと手先が非常に器用で、そのうえフランス留学時代はルノー自動車工場で金属加工や機械の組み立て作業を経験したこともあり、トラクター工場でも良い仕事ぶりだったようだ。失脚する前は毛沢東、劉少奇、周恩来、朱徳、陳雲に次ぐ中国第6位の高官が、工場の労働者に落とされるとは屈辱以外の何物でもないが、鄧小平は平然とここで4年もの幽閉生活を送り、そして復活した。

指導者像の分析ではリチャード・ニクソンの「指導者とは(文藝春秋)」が傑作だ。本書を読むと人は窮地に陥ったときの対応で評価されることがよくわかる。中国の古人曰く、得意淡然、失意泰然と。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成27年11月9日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金) に現地委託手数料と税金等を買の場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040